

「マイペンライ」は、タイ語で「なんでもないよ。気にしないで」の意味。アジアの人々のおおらかな心で交流が広がるようにとの願いを表現しました。

マイペンライ 通 信

編集・発行 アジア保育教育交流推進実行委員会
(略称：大阪マイペンライ)

http://cwoweb2.bai.ne.jp/osaka_maipenrai/index.html

2013年5月30日

N o . 8 9

TEL 072-645-7772

(森代表事務所)

FAX 06-6581-8536

(部落解放同盟大阪府連)

事務局 090-3948-8372 (稲葉)

Jge17901@cw2.bai.ne.jp

総会開催日程を延期します

3団体での議論を受けて開催する予定

年1回開催する総会は、本来6月末までに開催することとしていましたが、現時点で開催日程の確定に至っていません。3月29日に第1回実行委員会を開催して以降、大阪マイペンライの今後のあり方について、3つの団体会員（大阪府教組、部落解放同盟大阪府連、自治労大阪府本部）で議論が進められており、この結論を受けて第2回実行委員会を開催し、総会日程を決めることとしています。

団体会員、個人会員の皆様におかれましてはご了承いただきますようお願いいたします。

タイに行ってきました

12月、スタディーツアーを開催し、4名の方が現地での交流を深めました。下記がその報告です。（報告の掲載が遅れましたことをお詫びします。）

日 程 2012年12月9日(日)午前出発～16日(日)早朝帰国

交流内容 ターク県ターソンヤン郡の村の保育園・学校等での視察、交流。

タイ・バンコクのスラムでの活動するNGOとの交流。

参加者（敬称略）

本田智志（団長） 自治労大阪府職（大阪府立精神医療センター）

山出敏夫 自治労大阪府職（大阪府健康医療部食の安全推進課）

白石誠（事務局・会計） 大阪市従業員労働組合市民生活支部（大阪市保健所）

中野誠 大阪市従業員労働組合市民生活支部（大阪市中心卸売市場）

マイペンライ・スタディーツアー（2012.12）報告書

自治労大阪府職
本田 智志

今回のツアーでは、タイ山岳部のカレン族の奨学金を支援している高校生のお宅にホームステイさせていただきました。皆、タイ名とカレン名があり（非常に長い）互いにニックネームで呼び合っており、ホームステイ先の16歳男子高校生はニワット君（ちなみに各家庭にホンダのスクーターが1台あり、私の名は数秒で皆に覚えていただきました）。ニワット君は非常に聡明で落ち着きがあり、彼が通う1600名の保育所から高校までの一貫校のリーダー的存在。学生殆どが学校の寮生活であり、上級生が下級生の世話をすることは当たり前であること、勉強できること



が何より幸せであることが伝わってきました。

彼らの親たちは「勉強しなくても自給自足で食べていける」と就学に対して否定的な考えを持つ方も少なくなく、その方々の意識改革もマイペンライの大きな使命であることを痛感しました。皆、超がつく程ピュアであり、異性の話をすると、どれだけ赤くなんねんと言うほど顔が真っ赤になったのが印象的でした。彼らの日頃の遊びを軽はずみに「やろう」といったおかげで往復 8 時間山登りをする羽目になり、ヒルと鋭利な枝のせいで日本人皆血まみれ（なぜか私は水牛の糞を踏んだのみ）になったのも今思えば良い思い出となりました。

また、ミャンマーからの移民で、タイ・ミャンマーから共に認知されていない子ども達の学校を表敬訪問させていただきました。その間、同行してくれたのがこの学校の卒業生で NGO スタッフのトン君。感じたのは、外部からの支援だけでなく、トン君のような若者を多く育て、より視点の近い方達を中心となって現状を打開していくこと。我々は、そのサポートができる取り組みを継続させることが重要であると痛感しました。

急速な経済発展の一方で格差が広がっていること。特にスラムや農村においては、貧困と差別の中で、生きる権利すらおびやかされている子どもたちが多く存在する事に肌を感じる事が出来ました。これらの地域においては、地域の教育・生活・福祉の環境を整備することが緊急の課題であり、保育・教育の果たす役割は大変重要です。どの地域も、日本の「豊かさ」では考えられないほどの厳しい生活ですが、子どもたちの瞳は輝き、NGO スタッフはいきいきと活動しています。彼らの本来持っている文化や優しい気質を尊重し、同じアジアに住む仲間としてどのような援助が出来るか模索しながら、我々労働組合も出来る限りの協力をしていこうと考えています。

貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。

「スタディツアーに参加して」

自治労府職 健康福祉支部 山出 敏夫

私はこのスタディツアーで、タイにおける、「ミャンマー移民問題」、「多民族問題」、「スラム地区問題」を視察し、タイの現状を初めて知った。また、これらのそれぞれの問題は、解決すべき課題は異なるが、客観的にみると一つの大きな問題にもつながっているということも知ることになった。

視察を通して教えられた、タイの現状と課題を紹介したい。

●ミャンマー移民学校 「ミャンマー移民の現状」

【視察内容】

バンコクから車で約 7 時間、ミャンマーとの国境近いメーソットで、移動図書館を運営している方々に同行させていただき、ミャンマーからの移民の子どもたちの学校を視察した。

学校は 3 歳から小学生までの子どもたちが算数や歴史のほか、タイ語や英語を学んでいる。子どもたちは皆、明るく元気な子ばかりで、日本の子と変わらない気がした。ただ、環境は全く違う。ミャンマーからの移民のため、タイの国籍はない。そのため、学校はタイ政府ではなく、校長先生が NGO



からの支援を受けて運営している状況である。校舎は雨漏りしているところもあり、十分な環境とは言えない。ミャンマー人の校長先生はミャンマー語を話し、子どもたちも普段は、ミャンマー語を話す。タイで暮らしていくために、タイ語を教えることが特に大切であった。

タイ国籍のないミャンマー移民がタイで暮らしていくことは、差別や低賃金労働など生活は楽なものではない。そのため、学校ではタイ語を学び、また女の子は縫製工場で働くことが出来るように、縫製を学ばせていた。

学校のほか、ゴミ集積場に暮らす家庭も目の当たりにした。ゴミの山から

使える物を探して、街に売りに行く生活である。ミャンマー移民がタイで暮らしていくには、こうした厳しい現状があるが、ミャンマーではさらにひどい状況なのかと考えさせられた。

【課題】

- ・移民の増加の原因となっているミャンマー情勢の改善
- ・移民のタイでの地位の確立
- ・移民の生活環境の改善

●メーラムン学校とカレン族宅でのホームステイ 「少数民族の現状」

【視察内容】

メーソットから車で約3時間、メーラムンの山岳地帯にある学校を視察し、奨学金を受けて学んでいる高校生の自宅でホームステイをさせていただいた。この地域の住民はカレン族という民族で、有名な首長族にも近い民族だそう。言語もカレン語というタイ語とは全く異なる独自の言葉を話す。

学校は分校を含め13校あるが、特に分校は山奥に散在しており、最も近い場所でも車で約1時間という場所にある。本校では3才から高校生までの1,575名の学生が学んでおり、校舎はコンクリートでできた立派な建物。校舎横には養豚施設やナマズの養殖場も併設されており、自給自足ができる環境も整っていた。

ホームステイ先の高校生(名前はオーラン)は、奨学金を受けて教育を受けている。カレン族は自給自足の生活なので、現金収入がほとんどないからだ。家は萱屋根の高床式で、壁や床は竹を組み合わせで作られている。オーラン宅は水道や電気(ソーラー)は整っていたが、すべての家がそうではない。

カレン族の親世代は自給自足の生活ができており、今の生活を変える必要はないが、子どもたちは、それぞれ学校の先生や公務員、警察官などの夢を持って過ごしている。しかし、タイでは、同じタイ人でも、カレン族のような少数民族の地位は低いという問題があり、教育を受けることで少しずつ高めていこうという現状があった。

【課題】

- ・少数民族のタイでの地位向上
- ・教育環境の整備、向上

●スラム地区・スアンプルー再開発地区 「経済格差の現状」

【視察内容】

バンコクの全く異なるスラム地区2か所の保育園を視察した。ひとつは、長屋造りの住宅が密集している典型的なスラム地区にある保育園だった。衛生的とは言えないが、水道や電気などのインフラ整備はできている。しかし、このスラム地区では大きな道路に面しているため、薬物売買の場所になりやすいという問題を抱えていた。

もうひとつのスラム地区は、8年前に起きた火事により建物が全焼し、政府の支援を受けて再開発された地区であるため、スラム地区とは見えないきれいな地区だった。地区には門が設置され、監視カメラによって、薬物売買などの防止に取り組んでいた。

ここは、スラム地区の再開発のモデルケースになろうとしているが、住民の金銭面での負担もあるため、他の地区では、再開発がなかなか進んでいない現状である。

スラム地区はタイの経済格差を象徴しており、スラム地区から見える高層マンションは、約6,000万円の値がついているというが、再開発したスラム地区では、1軒あたり約100万の負担でも、返済に苦労している状況である。

【課題】

- ・衛生状態の改善
- ・薬物犯罪の防止



・経済格差の改善

●スタディツアーに参加して

私はこの視察の中で、タイの食品衛生の現状を知ることを一つの目的にしていたが、実際には、食品衛生の問題よりも、社会情勢や経済格差、生活環境など、優先されるべき問題が多くことを思い知らされた。

特に、「移民」、「多民族」、「スラム」は異なる3つの問題ではあるが、ミャンマー移民もカレン族も、タイでの地位が低く、働きに出るとなれば、スラム地区での生活にならざるを得ない点で問題はつながっている。スラム地区は経済格差の象徴であって、タイの大きな問題であると感じた。

マイペンライスタディツアー

大阪市従業員労働組合市民生活支部
中野 誠

今回のスタディツアーに参加させていただき、はじめにミャンマーの移民学校に訪問して、子どもたちが元気に自分たちを迎えてくれて少し安心しました。

また、一緒に訪問した移動図書館の方が絵本を読んであげる際、物語を読み進めながら体を使って表現し、そして子どもたちも巻き込み内容を一緒に体験しながら絵本の楽しさを伝えていたのがとてもすばらしかったです。

その後資源ごみを収集し、それをお金に換えて生活をしている移民の人が暮らす地区に行き、環境的には改善されたと聞いていましたが、近くにはごみの山がありそれに伴う異臭もしており、また家の作りも非常に悪く日本では見ることのない環境の中で子どもたちが元気に走っている状況にショックを受けました。

ホームステイではメーラムン学校を訪問し、とても大きな学校でありまた学校内で家畜の飼育・魚の養殖・野菜の栽培により自給自足をおこなっていることに驚きました。



子どもたちは非常に礼儀正しく、授業を見学した際はとてもまじめに取り組んでおり、日本の学校より教育方針としてしっかりしているのではないかと思えるほどでした。

またソムサク校長よりいまある学校の問題として寮の数が少なく、子どもたちが窮屈な環境で生活しているとの説明があり、実際に寮も見学しましたがどの寮も手狭な状況となっており、また寮そのものも雨漏りの跡があるなど老朽化が見られ、一部寮の前に崖があり子どもが転落したことがあったなど、柵の設置など安全対策も必要な状況でした。

ホームステイ先の子どもたちも非常にまじめでありまた優しく、私

たちをととても歓迎し、親身に接してもらったことにととても感謝しています。

彼らと一緒に雲海を見に片道4時間以上をかけ山を登りましたが、非常に大変ではあり疲れもしましたが、それが現地の子供たちや同じ日本から参加したメンバー同士のコミュニケーションとなり、このツアーの最大の思い出となったと思います。

また現地での生活に苦勞を感じることもありましたが、それが逆に一人では生活できない環境だからこそカレン族の人たちの絆や、子どもたちの優しさに繋がっているのではないかと感じ、いまの日本での人間関係の希薄さなどを考えさせられました。

しかし生活基盤としてとして電気はもちろん水道なども給水管の漏水箇所があるなどライフラインの整備は必要であると感じました。

学校での交流会ではカレン族の民族舞踊をホームステイ先の子どもと一緒に参加者全員で体験し、日本メンバーの出し物も好評をいただき楽しい時間を過ごし、最後に参加者から感謝と感想を述べ今後も引き続き助け合いの気持ちを持って交流をお願いしたいと訴えホームステイを終了してきました。

バンコクに移ってチュアパーンスラム・スアンプルー再開発地区を視察し、スアンプルーの火災からの復興にさまざまな団体の支援があり、宅地を勝ち取ってきた経過をきかせてもらい、今後も継続し残っているスラム地区の環境改善に繋がるよう取り組んでいく運動も必要であると感じました。

最後にシーカー・アジア財団を訪問し、図書館で日本の食べ物として「たこ焼き」を子どもたちに振舞い、子どもたちと一緒にたこ焼きを作り、喜んでもらうことができ行動を終えました。

このツアーで非常に多くのことを学ばせていただき、また実際に難民の方の生活、カレンの方たちの生活や文化に触れることができ多くのことを考えさせられるとともに、やはり現地で見ることがとても重要であり貴重な体験であると感じました。

自分のこの経験をいろいろな方に伝え少しでもタイの難民の現状や教育を受けることのできない子どもたちの手助けができればと考えます。

また実際に体験することの大切さなど、このスタディツアーの魅力も含め伝えていければと思います。

スタディツアーに参加して

大阪市従業員労働組合市民生活支部
白石 誠

今回、スタディツアーに参加し、多くのことを学ばせていただきました。

最初に現地視察としてミャンマーの2箇所の移民学校に訪問しました。

タイ国内では、移民者や国籍を持たない難民は低賃金・重労働を余儀なくされるなど差別的な状況であり、子どもたちは親とは別で学校の中で生活をしています。

学校ではタイ語、勉強の他にミシンを教わっていました。

昨年、難民キャンプにアウンサン・スー・チーさんが慰問に来たとき、5年以内にはミャンマーに戻りますと発言されたとのことで、ミャンマーの治安が安定し、一刻も早く現実のものになることを祈ります。

次にホームステイ先のあるターソンヤン郡メーソン区にあるメーラムン学校を訪問しました。

学園長の想いとして大学への進学ではなく、国の役職に就き地域を変えてほしいとのことから、この間行政、県議会議員、町長を卒業生より輩出しているとのことでした。

学校内では家畜の飼育・魚の養殖・野菜の栽培をしており、自分たちで食事を準備するなど自給自足に向け取り組んでいました。

先生は2～3年で転勤するとのことで、ここの学生から先生も自給自足できるようになればいいのになあと、思いました。いい先生になれると思います。

ホームステイはカレン族のお宅に2泊させてもらいました。家族を含めとても歓迎してもらいました。

最終日のバンコクではチュアパーンスラム・スアンプルー再開発地区を視察しました。

スラム特有の迷路のような路地が麻薬の売買などが容易に行える状況を生むなど治安悪化が問題となっています。



スアンブルー再開発地区は2004年に大火災が起こり、地区の大半が焼失する結果となりました。スアンブルー再開発地区が前例となり、今現在、残っているスラム地区の環境改善に取り組んでいく運動が必要であると感じました。

最後にシーカー・アジア財団を訪問し、シーカー・アジア財団の松尾さん・ムアイさんより「体験をすることが重要でありこの体験を大事にしていきたい、またスラムはタイの格差社会を凝縮しており、過酷な労働が産んだ製品が日本にも輸入されており、日本にいてもつながりがある」と、話された。

私は日本からこの問題について考えていきたいと思いました。

また、この経験をいろいろな方に伝え、実際に体験することの大切さなど、このスタディツアーの魅力も伝えていければと思います。

大阪マイペンライ スタディツアー-2012 日程 (12/9~16)

日時	内容	宿泊
9 (日)	15:45 バンコク到着 (TG673) 16:30 車両でメーソットへ移動 (道中で夕食) 23:30 メーソット到着、ホテルチェックイン	Centara Resort Hotel Tel: +66-5-553-2601
10 (月)	9:30 ホテルで朝食後、視察に出発 10:00 ミャンマー移民学校訪問 (移動図書館活動の見学、学校視察) 11:30 昼食に向け出発 12:00 市内レストランにて昼食 13:00 ミャンマー (ビルマ) 国境視察に出発 16:00 ターソンヤン郡へ移動 17:00 ゲストハウス到着 18:00 夕食 20:00 休憩	ワサン・ゲストハウス泊 Tel: +66-81-971-3325
11 (火)	7:00 出発、朝食 10:00 メーラムン学校到着 学校の視察など 12:00 昼食 13:00 子どもたちの出身村の視察 16:00 奨学生のホームステイ先に移動 ホームステイ先の家族と過ごす	ホームステイ泊 (ターソンヤン郡メーソン区)
12 (水)	ホームステイ先で行動 18:00 学校にて文化交流会	ホームステイ泊 (ターソンヤン郡メーソン区)
13 (木)	7:00 ホームステイ先を出発、空港へ 11:30 空港着 12:00 メーソット・ドンムアン (DD8117) 13:10 ドンムアン空港到着 15:00 ホテルチェックイン 休憩 18:00 夕食	ホーブランドホテル泊 Tel: +66-2-661-1691~5
14 (金)	8:30 ホテルを出発 9:00 チュアパンスラム、スアンブルー再開発地区 視察 12:00 昼食 13:30 シーカー・アジア財団 事務所 15:30 16:30 併設図書館にて活動参加 (料理づくり・たこ焼き) 19:00 夕食	ホーブランドホテル泊
15 (土)	終日 自由・市内観光など 18:00 夕食 20:30 空港へ向け出発 23:30 深夜便にてご帰国 (TG622) / 16 (日) 6:25 関空着	機内泊